自己点検・自己評価の結果及び結果の公表（令和６年度）

学校法人中九州第二学園（帯山幼稚園・わかくさ幼稚園・帯山のぎくこども園）

１．建学の精神・教育保育理念・教育保育方針・教育保育目標・目指す保育者像

《建 学 の 精 神》

一人ひとりの幼児の無限の可能性を信じ、その可能性に希望の火を点じ、その火が永久に燃えるようにとの願いを込めた教育・保育を通して乳幼児の生涯にわたる人格形成の基礎づくりを行う。また、子どもの自発的なあそびを通した学びの過程(プロセス)を特に重視し、乳幼児が自分の興味・関心、自分なりの思いをもって安心して生活し、自ら必要な経験を積み重ねていけるような環境の保障と、あそびの中で子ども一人ひとりが自己を発揮しながら、その中ですべての子ども達が、共に学び合い、共に支え合い、共に育ち合えるような教育・保育を行う。

《教 育 保 育 理 念》

〇どの子どもにも・・・・分け隔てなくすべての乳幼児に
〇よい環境で・・・・・・安心して遊べるぬくもりのある環境で
〇よい保育者による・・・質の高い保育者による（目指す保育者像）
〇よい保育を行う・・・・一人ひとりの能力に応じた保育を行う

《教 育 保 育 指 針》

１．一人ひとりの乳幼児の人格を尊重し、その能力や育ちに応じた教育・保育を行う。
２．幼児同士の学び合い、支え合い、育ち合いを重視した教育・保育を行う。
３．命を大切にする心を育む教育を行う。
４．障がいの有無にかかわらず、全ての子ども達が共に育ち合う統合保育を行う。
５．親と子の関わりを重視した教育を行う。
６．地域社会と連携し、地域に根ざした教育を行う。

《教 育 保 育 目 標》

知・徳・体の調和がとれ、豊かな心情をもち、主体的に生活する幼児の育成を目指す。

●個性豊かで思考力に富む人間(知)…
よく見、よく聞き、よく考える子ども。
〔意欲(自ら進んで活動する意志)・思考力(自ら考える態度)・創造力(自ら考え創り出す力)・表現力(自分の思いを表し伝える力)を培う。〕

●豊かな情操とたくましい意欲をもつ人間(徳)…
誰とでも仲良く遊び、思いやりのある子ども。豊かな心と強い意志をもつ子ども。
〔感謝の心(父母、家族、友だちなど)・人間尊重(誰とでも遊ぶ。弱い者いじめをしない。)・

忍耐力(困難に耐える)・克己(自己制御力を有する)・メタ認知(自分を俯瞰的・客観的に捉える力)を培う。〕

●明るく、強く、おおらかな人間(体)…

物事に積極的に取り組み、心身共に明るく健やかな子ども。

〔挑戦する力・最後までやり通す力・自己肯定感・楽観性〕

《目指す保育者像》

1．人情のある保育者
2．子どもといっしょに遊び得る保育者
3．人間の偉大さを知る保育者
4．自然を愛し、自然に興味をもつ保育者
5．子どもの僕たり得る保育者
6．創造的な保育者
7．子どもと同じ目の高さになれる保育者
8．幼児教育の専門的な目をもつ保育者
9．一人ひとりの幼児をみつめる努力をする保育者
10．公平無私の保育者

2．本年度、重点的に取り組む目標・計画

国や県、市や私立幼稚園連合会、全国幼児教育研究協会などが主催する研修会にオンラインや対面で積極的に参加し、自己の幼児教育への見識を高める。また、園内研修を重点的に行い、自園の教育課程・保育課程や指導計画の内容を常に見直し改善し、教職員の共通理解をはかるとともに、コロナ禍からも離脱していく過渡期の中で、子ども達にできる限り教育の機会を保障できるよう、教育内容を工夫する。

本園の教育保育理念や方針等を保護者に発信するとともに、保護者のニーズや本園の教育に対する意見や助言を聞き、本園としての中・長期ビジョンを明確にしていく。また、施設設備の改善・充実を図り、安全な園環境の整備に努める。

3．評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	取組状況
幼稚園教育要領及び認定こども園教育保育要領の精神を踏まえ、園の教育保育理念・教育保育方針にしたがい編成している。	幼稚園教育要領及び認定こども園教育保育要領の園内研修を行い、ほとんどの教職員が参加し、教職員の共通理解をはかり、教育課程や保育課程、指導計画の見直しと編成及び全体計画の編成を行っている。

教育要領、保育要領、教育保育課程、子どもの実態などをもとに考えている。	毎年、学期の終わりに、年間の指導計画の見直しを行い、また、毎月、月の指導計画の見直しも行い、乳幼児の実態に即した内容にしている。
子どもの実態を的確につかみ、具体的な手立てを講じる。	保育者は、一人ひとりの日々の生活や記録から乳幼児の実態を把握し、日案の作成や環境構成に反映させている。
各クラスの状況の把握	教育標準時間終了後に教職員の打ち合わせの時間を十分にとり、さらには毎週行っている職員会議の時間に情報の交流を密に行っている。
子どもの良さを認めて評価しようとしている。	教職員で話し合いをもち、全教職員が一人ひとりの乳幼児について共通理解がもてるようにしている。クラスや学年の枠を超えて全教職員で一人ひとりの乳幼児の良さを語り合い、更なる支援に活かしている。
遊びを通して工夫したり、協力したりする姿が見られる。	園の環境構成については全教職員で話し合い、幼児が自分で工夫して遊び、それが発展して互いの特性を活かし合いながら友達と協力して遊べるようにしている。
規則正しい生活習慣の定着に向けての指導を行う。	登園から降園までの一日の流れの中で、身につけて欲しい生活習慣の指導と実践を行っている。ご家庭にも園だよりなどでお知らせをし、園とご家庭とで緊密に連携をとっている。
全教職員がお互いの保育を観察し勉強できるようにしている。	他のクラスの保育や姉妹園の行事等を見る機会を設け、それを振り返る研修を行うと共に、幼稚園においては、熊本市私立幼稚園・認定こども園協会や熊本県教育委員会が開催する公開保育などに参加して、その報告会を開き、より良い教育保育が行えるようにしている。
各研修会や研究会に積極的に参加して教職員に資料提供している。	国、県、市、全日本私立幼稚園連合会、全国幼児教育研究協会などが主催する各種研修会に積極的に参加し、報告書の作成を行うとともに職員会議や園内研修を通して情報を提供し、学んだことを共有化できるようにしている。また、園として研修のための経済的な支援に力を入れている。
クラス便りやホームページ・一斉配信メール・園ブログをとおして園の情報を発信していく。	園の教育方針や取組を、ICT を利用したドキュメンテーションで、クラス便りとして定期的に保護者に発信している。 また、不定期で子ども達の園での様子をホームページや一斉配信メール、園ブログにて写真や動画を交えながら発信している。 特にコロナ禍以降、新型コロナウイルスの影響のため、参観等を制限せざるをえなかったため動画配信を増やすようになり、令和 6 年度もそれを継続し、園での子ども達の様子をできるだけ多く知ってもらうよう努めている。
教育保育目標や短期経営目標と連鎖した評価項目を作成。実施・反省・対応のサイクルを確立する。	ＰＤＣＡサイクルを念頭に置き、さらに充実した教育になるように配慮している。日頃の指導計画についても　P=Plan 計画、D=Do 実行(実施)、C=Check 評価、A=Act 改善(処置)を意識したカリキュラムマネジメントを重視している。

特別支援教育	一人ひとりの幼児のニーズに対応した支援を行い、個別の指導計画・教育支援計画も作成している。外部の療育関係の機関との連携も積極的に行っている。また、専門家との研修も定期的に行っている。
預かり保育	通常保育後に幼児に無理がない範囲で預かり保育を行い、保護者のニーズに応えている。また長期休暇中も預かり保育を実施している。
子育て支援	3 園ともに、定期的に未就園児の親子を対象にして、子育て支援を実施し、親と子どもがともに育つ場を無料で提供している。また、3 園とも常時園庭を開放し、未就園児と保護者の遊びと交流の場を提供している。帯山幼稚園では、以前より回数を増やし週 1 回ほどのペースで子育て支援を行い、多くのご家族に参加していただいた。
安全管理・飲料水の検査	日々の遊具等の安全点検の他に、必要に応じて専門の業者による安全点検も実施し、子どもたちが安心・安全に遊べる環境になるようにしている。 飲料水の検査は、毎年４月に行うようにお願いしている。
教育環境整備	施設や設備の安全･維持管理のための点検を長期休暇中に行っている。また、令和 5 年度は、経年劣化した各クラスの遊具や玩具を入れ替え購入し、子ども達のあそびがより深く展開していくように努めた。 また、廃材を使ったあそびを多く取り入れ、子ども達が、想像したものを作ったり、それを使ってあそんだりして、あそびの幅を広げる環境構成に努めた。 コロナ禍がひと段落したため、前年度まで業務委託していた全保育室の消毒はとりやめたが、トイレ掃除の業務委託はそのまま継続し、トイレの衛生向上と職員が教育準備にさける時間の創出に努めた。 空気清浄機とエアコンを全教室に設置している。 ＡＥＤも園に常備している。 また、学校薬剤師により、プールの水質管理・室内の照度の点検・ダニ等の検査、二酸化炭素の濃度の検査等を定期的に行い、衛生面にも配慮している。
園に対する保護者の気持ちの把握	園の教育保育や行事に対して、その都度保護者から感想や意見をいただくようにしている。また、担任と保護者間に連絡帳があり、いつでもご意見をいただけるようになっている。また、保護者の希望や教師の必要性に応じて、いつでも面談を行えるようにしている。 また、帯山のぎくこども園については年１回保護者の園に対する評価をアンケートにて実施し、公表している。
園の財務状況	借入金はなく、毎年公認会計士と学園の監事による監査を受け、適正に処理されているとの報告を受けている。

情報提供 保護者との連携	週便りやクラス便り、さらには、各家庭との連絡帳などにより情報の提供をはかっている。 毎日の送り迎えの時間に積極的に保護者との会話を行い、互いの情報の交流に努めている。 また、園のホームページ・一斉配信メールによる動画配信・園のブログ等も充実したものになるよう努力している。
園児募集	子どもの視点に立った本園の教育保育理念・方針をわかりやすく保護者に話すことの重要性を感じている。特に新入園児の保護者の方にその意義を理解してもらうよう説明会を実施し、スライドショーで、入園から卒園までの園生活を見てもらうようにしている。
保育業務・事務業務の ICT 化の推進	令和 4 年度については、帯山幼稚園で保育 ICT システムを本格的に運用し、保護者との連絡等をアプリを使って行った。また、タブレットや PC を購入し、ICT システムと連携させ、記録や計画、保育ドキュメンテーションなどをできるだけデジタル化するようにした。令和 5 年度は、わかくさ幼稚園・帯山のぎくこども園にも同じ ICT システムを導入した。令和 7 年度からは本格的に運用するため、令和 6 年度にその準備をした。事務業務についても、経理・会計・労務の新たなソフトへ移行して 4 年目となり、様々なデータを円滑に統合・連携させることができるようになった。これらの ICT 化により、少しずつ業務の効率化がなされてきている。また、3 園とも働き方改革の一環として、タイムカードを導入し、自分の勤務時間を客観的に把握することにより、残業を減らし、休憩をしっかりとり、残りの時間で業務を効率的に行うように努める契機となった。

４．自己点検・自己評価による具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結　果	理　由
良好	・教師一人ひとりが学校評価の趣旨を理解し、各自適切に自己点検、自己評価に取り組んだ。今後も客観的な目で自らの教育・保育を振り返り、更に充実した実践ができるように努力を積み重ねていきたい。 ・施設面では理事長・園長・副園長が中心となって園舎整備・保育環境整備に力を入れ、また教職員も日々の遊具等の安全点検を行い、さらに必要に応じ専門の業者の安全点検及び補修・改修も実施して、子どもたちが安心・安全に遊べる環境になるよう努力した。 ・安全衛生面においては、学校薬剤師による検査に基づき、指導助言をいただきながら子ども達の健康に配慮したり、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、毎日のトイレの消毒・清掃を専門業者に委託するなど安全衛生管理に努めた。 ・保護者からの評価は良く、更に信頼される園づくりを目指していきたい。

５．今後取り組むべき課題

課　題	具体的な取組方法
中九州第二学園の教育保育の理解の推進	三園の教育保育については保護者の皆様から良好な評価を得ているので、これを維持していくと同時に在園児以外の方への情報発信を更に進めていきたい。
自己点検・自己評価	学期毎に各教職員が自己点検・自己評価を行い、それを元に年度末に全員で話し合いをしているが、その結果が次年度の幼児教育に活かされるよう更に努力する。
指導計画の編成	教育課程や保育課程、年間の指導計画の見直しは年に３回行っている。また、月の指導計画の見直しは毎月行っている。本年度も指導計画の改善・作成のために、訂正・加筆をさらに加え、カリキュラムマネジメントを重視した取り組みを行っていき、園を取り巻く環境や幼児の実態に即した新たな指導計画の編成に取り組んでいく。
教育環境整備	園舎・設備・園庭・遊具・栽培園・野外保育場・野外保育室などの環境整備をさらに充実させていきたい。